

# ワーク・エンゲージメントの研究

-CSR 認知と社会志向性の視点からの検証

澤田 陸斗

中越 裕登

## <要 約>

ワーク・エンゲージメントは組織行動論における従業員と仕事との関係性に注目した重要な概念として研究されてきた。中でも、組織コミットメントや離職意思、パフォーマンスなどの一連の変数との関係が示された。しかし、企業と個人の社会性の観点から検討した研究はまだ十分に行われていたとは言えない。そこで本稿では、ソーシャル・パースペクティブ (social perspective) の観点からワーク・エンゲージメントの研究を行った。具体的には、企業の社会貢献活動を表す CSR (corporate social responsibility) と、個人の価値志向である社会志向性の2つの視点から考察した。さらに、ワーク・エンゲージメントを高めるメカニズムについては、「自己高揚 (self-enhancement) 動機理論」を用い、コーポレート・レピュテーション (corporate reputation, CR) と信頼感といった個人の認知と特性に関わる概念との関係性から分析した。従業員 322 名を対象に共分散構造分析を行った結果、CSR 認知と社会志向性は CR を媒介してワーク・エンゲージメントに作用し、また、CR とワーク・エンゲージメントの関係は信頼感によって調整されることが明らかになった。具体的な調整効果として、信頼感が低い場合には、CR とワーク・エンゲージメントの関係が強くなるという結果が示された。間接効果はブートストラップ法、調整効果は単純傾斜分析を用いて確認した。本研究は、企業・個人の社会性とワーク・エンゲージメントの関係を明らかにした点で、社会性を考慮したワーク・エンゲージメント研究の発展に寄与することができたと言えるだろう。また、信頼感と社会志向性といった個人差の影響の違いを明らかにし、日本のワーク・エンゲージメント向上の一助となれた点で大きな貢献になり得る。

## <キーワード>

ワーク・エンゲージメント, CSR 認知, 社会志向性, CR, 信頼感, ソーシャル・パースペクティブ

